

# トビウオ通信 (H21 第 1 号)

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

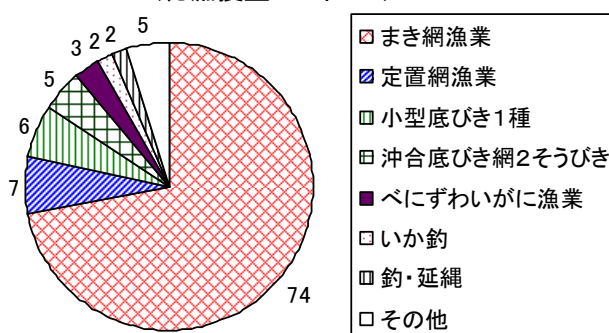
## 《平成 20 年(2008 年)の島根県漁業の動向》

県の漁獲管理システム (TAC システム) により集計した県下漁業協同組合の漁獲統計資料 (属人) から、平成 20 年 (1~12 月) の島根県漁業の動向を取りまとめました ※ (海面漁業・漁船漁業のみ)。

**全体 … 漁獲量はほぼ平年並、生産額は平年をやや上回る**

平成 20 年の島根県下の総漁獲量は約 10 万 3 千トン、総生産額は約 198 億円で、漁獲量は平年比 100%、生産額は平年比 106%となりました (図 1~4、表 1)。前年 (平成 19 年) 比では漁獲量で 86%、生産額で 96%と量・金額共に前年よりやや減少となりました。前年に比べて漁獲量が減少した要因は主としてまき網のマアジの漁獲量が減少したことです。漁業種類別では小型底びき 1 種・沖合底びき網 2 そうびき・定置網等は平年並かやや平年を上回りましたが、釣りやイカ釣りは低調でした。

平成 20 年 漁獲量 (単位: 千トン)  
(総漁獲量 103 千トン)



平成 20 年 生産額 (単位: 億円)  
(総生産額 198 億円)

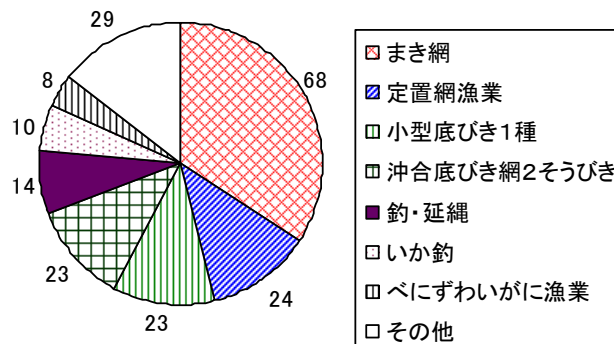


図 1 平成 20 年の島根県の漁業種類別漁獲量 (全漁協)

図 2 平成 20 年の島根県の漁業種類別漁獲金額 (全漁協)

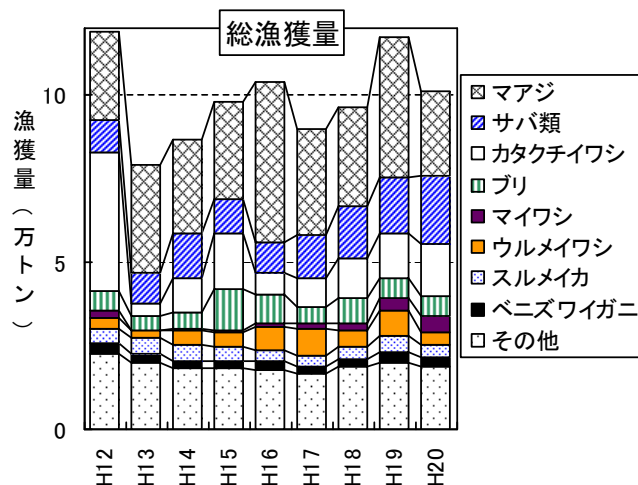


図 3 島根県の魚種別漁獲量の推移 (主要支所)

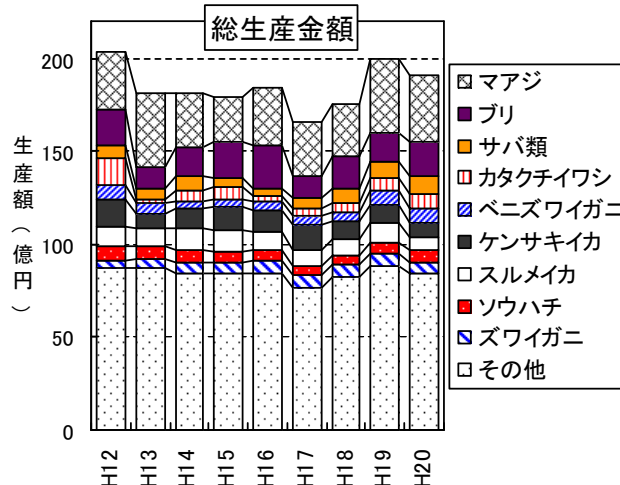


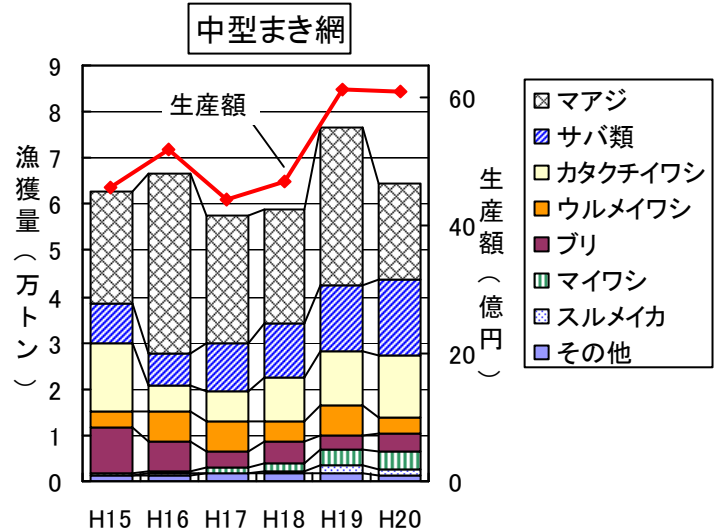
図 4 島根県の魚種別生産額の推移 (主要支所)

※ 平成 20 年の単年の漁獲量・金額は県下全漁協の集計値ですが、生産額推移・平年比などは松江市・湖陵・多伎・温泉津・江津・知夫を除いた JF しまね主要支所および海士町漁協のデータを元に算出しています。また、実質的に県外を根拠地としている一部の大中型まき網・沖合底びき・べにずわいかご漁船のデータは統計に入っていません。※ 平年値は過去 5 年の平均値

**中型まき網漁業 …漁獲量は平年並、生産額では H19 年並みの高水準**

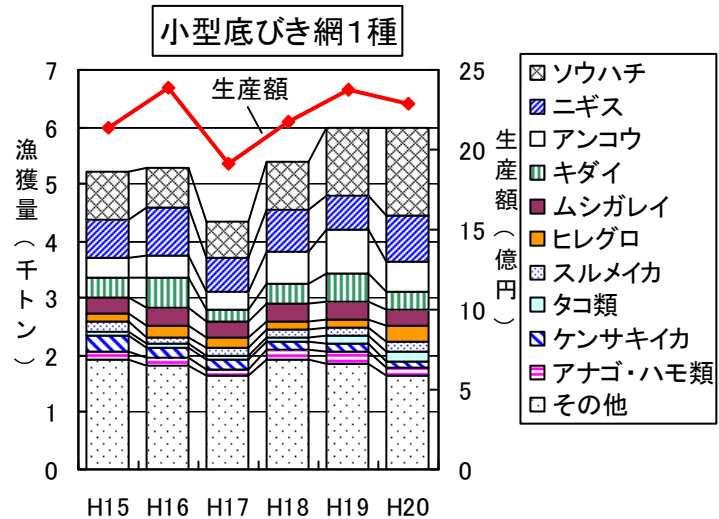
まき網漁業の中核をなす中型まき網漁業は、主漁獲対象種のマアジは平年比 70%と低調でしたが、サバ類 (同 158%)・カタクチイワシ (同 143%)・マイワシ (同 279%) などが好調だったため、漁獲量は平年並となりました。生産額についてはマアジの単価が高かったことがあって平年を大きく上回り、好調だった前年とほぼ同じ 60 億円となりました。

地区別では、石見・隠岐いずれも似た漁獲動向でしたが、特に石見地区ではイワシ類が多く漁獲されました。



**小型底びき網1種漁業 …漁獲量は高い水準だが生産額は前年を下回る**

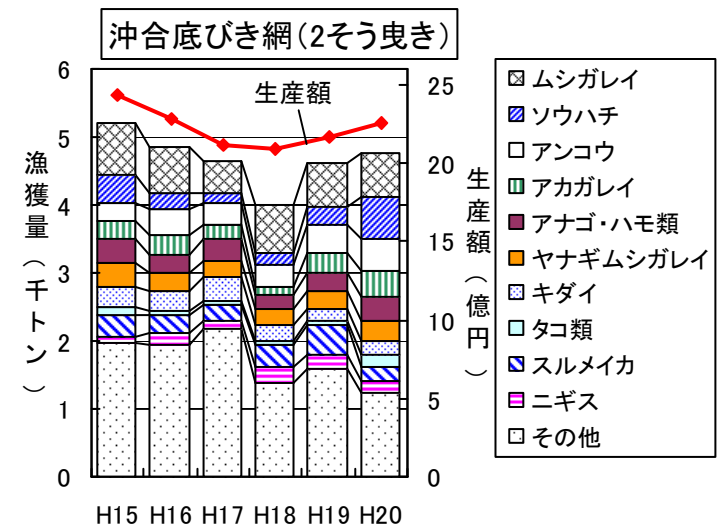
小型底びき網1種漁業 (かけまわし) の漁獲量はソウハチの漁獲が増加したことから、前年とほぼ同じ高い水準 (平年比 114%) を保ちましたが、生産額は前年を下回りました (平年比 104%)。前年に比べ、魚種ではソウハチ、ニギス、タコ類などが増加した一方、アンコウ、キダイ、アナゴ・ハモ類などはかなり減少しています。例年、秋以降操業の障害となる大型クラゲがほとんどいなかったことも好調に推移した要因の一つに挙げられます。



**沖合底びき網漁業 …漁獲量・金額ともに前年をわずかに上回る。1 統あたり生産額では過去最高**

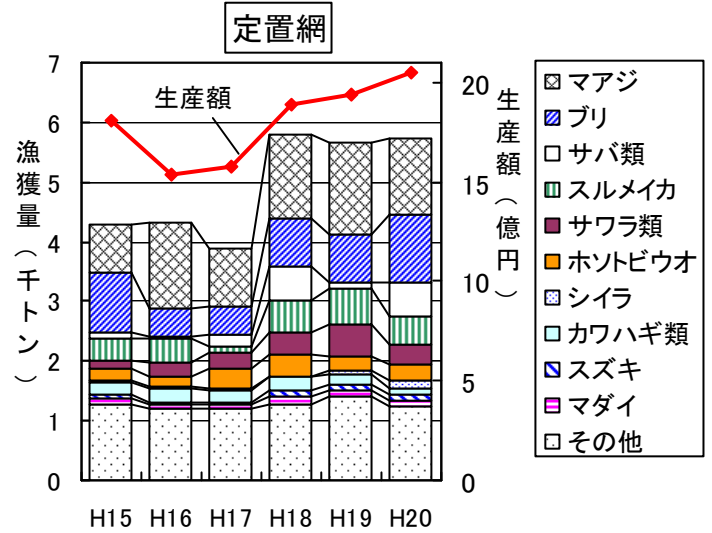
沖合底びき網は漁獲量が平年比 103%、生産額が平年比 102%で、ムシガレイ、ソウハチ、アンコウ、アカガレイ、アナゴ・ハモ類、ヤナギムシガレイ、タコ類などの漁獲が増加したため、総漁獲量・生産額共に前年をわずかに上回りました。また冬季～春季にかけてマフグがまとまって獲れたことも生産額が増加した要因です。

沖合底びき網は統数の減少などもあり平成 13 年以降生産額が毎年減少していましたが、平成 20 年は前年に続き漁獲量・生産額共に上向き、1 統あたり生産額では過去最高となりました。



### 定置網漁業 …ブリやマサバが好調で平年を上回る

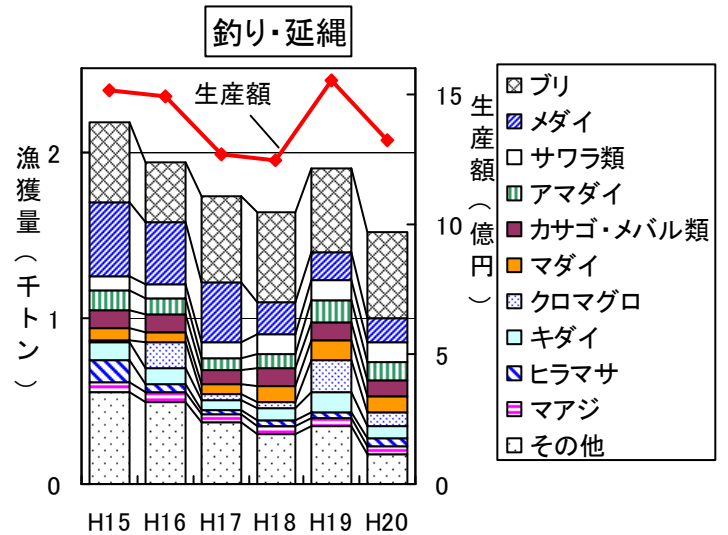
定置網漁業（大型定置網・小型定置網）はマアジ（漁獲量平年比 103%）、ブリ（同 162%）、サバ類（同 269%）、スルメイカ（同 121%）、サワラ（同 111%）など主要な魚種が全般に好調で、平成 19 年に続いて平年をかなり上回る漁獲となりました。また、生産額はマアジの単価が高かったことが主な要因で 20 億円を超える高い水準となりました。平成 20 年は大型クラゲの被害が全くなかったこともプラス要因となりました。地区別では、出雲地区は平年の 1.3 倍（ブリが平年の約 2 倍の漁獲）、石見地区では平年の 1.2 倍（サバ類が平年の約 6 倍）、隠岐ではほぼ平年並の漁獲量となっています。



### 釣り・延縄 …全般に低調で漁獲量・金額共に減

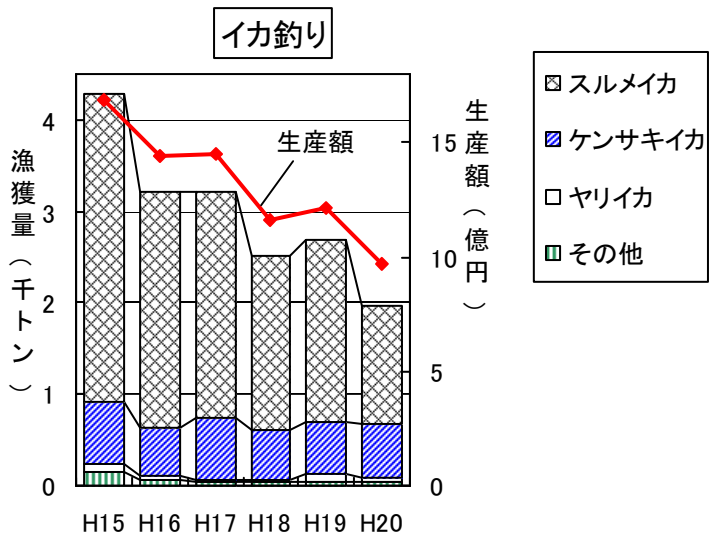
釣り・延縄による漁獲は平年を下回り、漁獲量で平年比 81%、生産額で平年比 93%となりました。平成 20 年はメダイ、キダイ等で減少が目立ち、またクロマグロ（ヨコワ）も前年ほど多く漁獲されませんでした。近年増加傾向にあったサワラやアマダイの漁獲も平成 20 年は横這いです。

地区別では、出雲地区では平年をやや下回る程度でしたが、石見地区では主要漁獲物のメダイ・ブリが平年の半分程度の漁獲だったため、全体で平年の 7 割の漁獲量となりました。隠岐地区でもメダイやその他の魚種が全般に低調で、全体で平年の 8 割でした。



### イカ釣り …スルメイカが減少

イカ釣り漁業（5 トン未満・小型イカ釣り 5 ～30 トン・中型イカ釣り）による漁獲量は漁獲量・生産額共に平年・前年を下回りました。主な漁獲物であるスルメイカの漁獲量はここ数年減少していますが、今年は 3 月以降スルメイカの漁獲が平年の半分以下で推移し、漁獲量は平年の 52% でした。ただし、ケンサキイカは平年をやや上回る漁獲となっています。全体の生産額は近年にない低い水準となり、合計で 10 億円を下回りました。



※ 各漁業の概要やトビウオ通信バックナンバーについては島根県水産技術センターホームページをご覧ください。  
( <http://www2.pref.shimane.lg.jp/suigi/> )

表1 平成20年の県内主要漁業の海別漁獲量・生産額

漁業種類	海区	漁獲量※			生産金額※			1ヶ統あたり漁獲量※			1ヶ統あたり生産金額※		
		量(トン)	平年比	前年比	金額(百万円)	平年比	前年比	量(トン)	平年比	漁模様	金額(百万円)	平年比	漁模様
すべての漁船漁業	全県	102,661	100%	86%	19,837	106%	96%	—	—	—	—	—	—
中型まき網	石見	6,852	97%	115%	1,086	119%	109%	1,713	121%	◎	271	147%	◎
	隠岐	57,764	101%	82%	5,002	123%	97%	7,221	114%	◎	625	138%	◎
小型底びき網1種	石見	5,380	111%	100%	1,993	99%	95%	105	117%	◎	39	104%	○
沖合底びき網2そう曳き	出雲・石見	4,692	103%	99%	2,257	102%	104%	670	123%	◎	322	120%	◎
定置網 ※※	出雲	3,685	127%	104%	1,423	121%	109%	264	129%	○	102	123%	○
	石見	914	116%	134%	253	100%	98%	218	134%	○	62	115%	○
	隠岐	1,127	101%	78%	369	116%	98%	311	106%	○	101	117%	○
釣り・延縄	出雲	818	95%	84%	599	101%	87%	—	—	—	—	—	—
	石見	486	67%	72%	445	82%	81%	—	—	—	—	—	—
	隠岐	338	75%	83%	394	97%	87%	—	—	—	—	—	—
イカ釣り (5トン以上30トン未満)	出雲	761	51%	64%	332	60%	72%	—	—	—	—	—	—
	石見	104	82%	92%	67	85%	98%	—	—	—	—	—	—
	隠岐	288	52%	53%	126	56%	56%	—	—	—	—	—	—

※ 漁獲量・生産金額は県内全漁協が対象。平年比・前年比は松江市・湖陵・多伎・温泉津・江津・知夫を除いたJFLまね主要支所および海士町漁協の数値を元に算出。

平年比：過去5年の平均値との比較 漁模様：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

※※ 漁獲量・生産金額は大型定置・小型定置の合計値。1ヶ統あたり漁獲量・生産金額は平成20年現在操業中の大型定置のみを対象に算出。